

2010(平成 22)年度 西南学院の予算概要について

西南学院では、理事会で決定された予算編成方針に基づき、予算を編成しております。今年度の予算編成に当たっては、今まで懸案事項になっていた次の 2 点について対応しましたので、例年と違った予算編成になりました。

1. 償却資産の耐用年数等の見直し

学校法人委員会報告 28 号の「学校法人の減価償却に関する監査上の取り扱い」に従い、減価償却に関する規程の見直しを行い、固定資産の耐用年数、残存価額等を変更しました。この規程の改正によって、例えば鉄筋コンクリート構造の建物の耐用年数は、60 年から 50 年に短縮（現在保有している建物にも遡って適用）されることとなります。機器備品については、備忘価額を付さずに帳簿価額が 0 円となった時点（償却最終年度）で一括して除却処理することとなります。この変更によって 2010 年度は、減価償却額が 6.2 億円増加しました。今後も毎年今までより若干減価償却額が増加します。また、2010 年度は翌年度繰越消費収支差額のプラス要因として基本金取崩額が 18.6 億円発生します。

2. 退職給与引当金の計上基準を 50% から 100% へ変更

本学院は、退職給与引当金について期末退職金要支給額の 50% を基準として計上しておりましたが、100% 基準で計上している学校法人が多くあり、数年前から理事会でも問題になっておりました。今年度から、教職員の退職資金の確保ということも考慮して 100% 基準に変更しました。このため、人件費としての退職給与引当金繰入額を学院全体で 22.7 億円計上することとなります。この対応により、退職金債務の実態とそれに対応する特定預金等を貸借対照表に適切に表示することができます。

2010 年度消費収支予算では、帰属収入合計は 114.4 億円で昨年予算と比べて大きくは変わりませんが、基本金組入額合計が 15.9 億円減少（昨年度は小学校開設に伴う校舎等建築、中学・高校校舎増築、大学田尻グリーンフィールド整備などの施設整備を行ったため。）したため、消費収入合計は 16.1 億円増加して 102 億円となります。また、懸案事項であった上記 2 点の対応により消費支出合計は昨年度より 27 億円増加して 137 億円となります。その結果、当年度消費支出超過額は 35 億円となりますが、基本金取崩額による 18.6 億円を差し引きますと、実質的には 16.5 億の支出超過となります。また、2009 年度決算における翌年度繰越消費収支差額が予算より 10.4 億円好転しましたので、翌年度繰越消費収入超過額は現在の予算額 2.3 億円から 12.7 億円に増加予定です。